

# 真庭市立中央図書館整備基本計画

平成 27 年 11 月

真庭市教育委員会

## 《 目 次 》

1	基本的な考え方	
	(1) 計画の位置づけ	2
	(2) 中央図書館整備の意義	2
	(3) 蔵書のあり方	2
	(4) 立地について	3
2	整備の骨格	
	(1) 整備場所	5
	(2) 蔵書可能数	5
	(3) 全体の構成	5
	(4) 整備スケジュール	5
3	書架等の規模	
	(1) 書架及び閲覧席の規模	6
	(2) 蔵書整備	6
4	構成要素、ゾーニング	
	(1) 構成要素	8
	(2) ゾーニング	10
5	その他	
	(1) 設計者の選定方法	11
	(2) 木材利用	11
	(3) ユニバーサルデザイン	11
	(4) 耐震性能の確保	11
	(5) 安全性の確保	11
	(6) 施設の管理運営	11
	(7) 開館日、開館時間	11
	(8) 人員配置	11
	(9) 市民との協働	12
6	勝山振興局機能について	13

## 1 基本的な考え方

### (1) 計画の位置づけ

本計画は、「真庭市図書館基本構想」（平成 24 年 11 月策定）及び「真庭市図書館基本計画」（平成 27 年 6 月策定）に基づき整備する中央図書館について、明らかにするものである。

### (2) 中央図書館整備の意義

現在各地区（北房、落合、久世、勝山、美甘、湯原、蒜山）にある図書館では、図書検索システムを利用すると県内の県立・他市町村立図書館の本を借りることもできるが、各図書館が所蔵する本は重複するものや古いものが少なくない。

そのため、面積が広い真庭市において市民が本に触れる機会を確保するため「地区図書館」を維持することとあわせて、新たに専門書を含む豊富な本を有し、市立図書館すべての運営を統括する「中央図書館」を選定・整備することとした。その際、中央図書館と地区図書館の連携も強化することとする。

市民は、身近な「地区図書館」で本を貸し借りできるとともに、「中央図書館」まで足を延ばすと、数多くの本を直接手に取り「本と出合う楽しさ」を体感できるようになる。また、中央図書館では、次に挙げるようなことが可能になるようにする。

- ・子育て世代は、数多くの絵本や大人向けの図鑑等も子どもに見せられるようになる。
- ・本が好きな人は、好きな作家の作品が増えたり、今まで知らなかった作家の隠れた名作を見つけたりすることができるようになる。
- ・歴史や民俗に興味がある人は、専門的な本も読めるようになる。
- ・そのほか、幅広いジャンルの新聞・雑誌を読めるようになる。

こうした書架スペースに加えて、キッズスペース、視聴覚室、学習室、喫茶スペース等も併せて整備し、多くの市民が利用する「本の香りがするまちづくり」の拠点となる中央図書館とする。

### (3) 蔵書のあり方

現在、市立図書館の蔵書数は、全体で約 184,000 冊であるが、重複するものを除くと約 132,000 冊である。

現在の真庭市人口（約 48,000 人）に全国平均の人口 1 人当たりの蔵書数（4.0 冊/人）を乗じると、約 192,000 冊となる。また、「第 2 次真庭市総合計画」（平成 27 年 1 月策定）における 2040 年の推計人口（約 34,000 人）に、全国上位 10% の 1 人当たりの蔵書数（5.8 冊/人）を乗じると約 198,000 冊となる。

これらを踏まえて、真庭市として、市立図書館の蔵書を約 60,000～70,000 冊増補することとし、これらを中央図書館に配置する。

#### （４）立地について

「真庭市図書館基本計画」に基づき、利用者の利便性、収蔵能力、施設整備コスト等を考慮して検討し、最も合理的な方法として、現・勝山振興局庁舎（全館）を転用することとする。

現・勝山振興局庁舎は、最寄りの駅（ＪＲ中国勝山駅）から徒歩 13 分、最寄りのバス停（本郷バス停）から徒歩 5 分、近隣の学校教育施設から徒歩 7～15 分である（表-1）。また、駐車場は 144 台収容可能である。

鉄道及び自家用車の利用者については、他の中心拠点施設と比較して利便性に差はない（表-2）。

バス利用者については、勝山地域にまにわくんのハブ機能はないものの、次のとおり市内全域からのアクセスが可能である。

- ・ 蒜山・湯原・久世地域からは、「蒜山・久世ルート」で最寄りの本郷バス停まで直通可能である。
- ・ 落合・北房地域からは、「北房・久世ルート」で真庭市役所本庁舎まで行き、「蒜山・久世ルート」に乗り換えて本郷バス停まで行くことができる。
- ・ 美甘地域からは、「新庄・久世ルート」で中国勝山駅まで直通可能である。

（表-1）公共交通機関等との距離

	現・勝山振興局庁舎との距離
中国勝山駅	1,000m（徒歩 13 分）
本郷バス停	400m（徒歩 5 分）
勝山小学校	550m（徒歩 7 分）
勝山中学校	1,200m（徒歩 15 分）
勝山高等学校	1,000m（徒歩 13 分）

(表-2) 他の中心拠点施設との比較

	駅	バス停	高等学校	駐車場
中央図書館 (現・勝山振興局庁舎)	1,000m 徒歩 13 分 (中国勝山駅)	400m 徒歩 5 分 (本郷バス停)	1,000m 徒歩 13 分 (勝山高等学校)	144 台
市役所本庁舎	1,000m 徒歩 13 分 (久世駅)	-	800m 徒歩 11 分 (真庭高等学校久世校地)	200 台
エスパスセンター	850m 徒歩 11 分 (久世駅)	200m 徒歩 3 分 (真庭市役所バス停)	1,000m 徒歩 13 分 (真庭高等学校久世校地)	223 台
湯原温泉病院	-	120m 徒歩 2 分 (湯原温泉病院バス停)	-	114 台
白梅体育館	2,600m 徒歩 35 分 (美作落合駅)	-	2,300m 徒歩 28 分 (真庭高等学校落合校地)	90 台
久世税務署	700m 徒歩 9 分 (久世駅)	270m 徒歩 3 分 (真庭市役所バス停)	1,270m 徒歩 15 分 (真庭高等学校久世校地)	11 台
真庭警察署	700m 徒歩 9 分 (中国勝山駅)	300m 徒歩 4 分 (江川バス停)	950m 徒歩 13 分 (勝山高等学校)	30 台

## 2 整備の骨格

### (1) 整備場所

土地	<ul style="list-style-type: none"><li>・地番：真庭市勝山 53-1、53-2、53-3、53-4、53-5、53-6、53-7、53-8、53-9、54-1、54-2、54-3、54-4、55-1、55-2、55-3、55-4、55-5、55-6、56-2、56-3、56-4、57-2、59-2、59-4、62、63-5、63-6、63-7、69-1、70-2、70-3、78、78-1、79-1、79-2 番地 (全 36 筆、全て真庭市有地)</li><li>・敷地面積：8,592m<sup>2</sup></li><li>・駐車場：144 台</li></ul>
建物	真庭市役所勝山振興局庁舎（昭和 55 年建設） <ul style="list-style-type: none"><li>・地上 3 階鉄筋コンクリート造</li><li>・建築面積：1,306m<sup>2</sup></li><li>・延床面積：2,812m<sup>2</sup></li></ul>

### (2) 蔵書可能数

- ・一般書（開架）：約 83,000 冊
- ・児童書（開架）：約 22,000 冊
- ・郷土資料（開架）：約 4,000 冊

### (3) 全体の構成

- ・1 階：一般書フロア（一般開架、事務所等）
- ・2 階：児童書フロア（児童開架、テラス等）
- ・3 階：シアター・学習フロア（映像シアター、学習室、喫茶スペース等）
- ・外構：駐車場（144 台）、バイオマスボイラー棟等

### (4) 整備スケジュール

- ・平成 27～28 年度：基本設計・実施設計
- ・平成 29 年度：整備工事
- ・平成 30 年度：開館予定

### 3 書架等の規模

#### (1) 書架及び閲覧席の規模

書架及び閲覧席の規模については、次のとおりとする。

		収蔵可能数	閲覧席
一般開架	540m <sup>2</sup>	83,000 冊 〔 一般書：70,000 冊 新書・文庫：11,000 冊 雑誌等：2,000 冊 〕	32 席
児童開架	250m <sup>2</sup>	22,000 冊	・ 閲覧席：20 席 ・ ベンチ：4 基 ・ 素足エリア：100m <sup>2</sup>
郷土資料	48m <sup>2</sup>	4,000 冊	
貴重書庫	12m <sup>2</sup>	1,000 冊	
閉架書庫	39m <sup>2</sup>	15,000 冊	
合計		125,000 冊	52 席

一般開架の閲覧席については、県立図書館の同程度の面積当たりの席（40席）の約8割を確保する。

児童開架の閲覧席については、児童の年齢に応じて利用しやすいよう、多様なスペース（机、ベンチ、素足エリア）を用意する。

閉架書庫については、「貴重資料の保管」と「資料の更新」の2機能がある。貴重資料の保管については、専用の貴重書庫を確保する。資料の更新については、利用者ができるだけ多くの本を開架スペースで直接手に取ることができることとし、当面は約15,000冊収容の閉架書庫で対応する。

なお、障がい者等に配慮するため、録音図書や点字資料を提供するとともに対面朗読室も整備する。

#### (2) 蔵書整備

1 (3) で示した考え方を踏まえて、当面、現・勝山図書館が現有する蔵書に加えて約61,000冊を増補し、中央図書館として、約90,000冊の開架図書の整備を目指すこととする。

購入の財源については、起債は充当できないが、初期投資費用として世代間で分担することが適当であると考えられるため、合併特例事業債を活

用して積み立てた振興基金を活用することとする。併せて、寄贈本の受入れや中古図書の購入などにより経費節減に努めることとする。

#### 4 構成要素、ゾーニング

##### (1) 構成要素

・1階

機能	構成要素	備考
エントランス	ブックポスト	
	コインロッカー	
	待合スペース	
貸出	受付カウンター	
検索	資料検索スペース	
開架・閲覧	一般開架	
	一般書	蔵書約 70,000 冊
	新書・文庫	蔵書約 11,000 冊
	雑誌	蔵書約 2,000 冊
	閲覧席	32 席
	新刊展示	
	点字資料等コーナー	
	インターネット検索コーナー	
	BDS	
	対面朗読室	
	郷土資料室	蔵書約 4,000 冊
資料整備	事務室	40m <sup>2</sup> (最低限確保)
	作業室	40m <sup>2</sup> (最低限確保)
会議・厚生	スタッフラウンジ	現・食堂を利用
	会議室	現・休養室を利用
	更衣室(男子・女子)	
移動図書館基地	配送・仕分け作業室	40m <sup>2</sup> (最低限確保)
保存	貴重書庫	蔵書約 1,000 冊
建物機能	廊下	
	階段	
	エレベーター(11人乗)	
	トイレ(男子・女子・多目的)	ウォシュレット・オストメイト対応
	空調機械室	

・ 2階

機能	構成要素	備考
貸出	児童書カウンター	
開架・閲覧	児童開架	
	児童書	蔵書約 22,000 冊
	閲覧席	20 席
	ベンチ	4 基
	キッズスペース (素足エリア)	100m <sup>2</sup>
	視聴覚スペース	
	テラス	現・屋上を利用 安全柵設置
資料整備	BDS	
	作業室	20m <sup>2</sup> (最低限確保)
	倉庫	20m <sup>2</sup> (最低限確保)
保存	閉架書庫	蔵書約 15,000 冊 現・書庫を利用
建物機能	廊下	
	階段	
	エレベーター (11 人乗)	
	トイレ (男子・女子・多目的・子供用)	ウォシュレット・オストメイト対応
	授乳室	おむつ換えシート

・ 3階

機能	構成要素	備考
集会	会議室	70m <sup>2</sup> (最低限確保)
	学習室	50 席 (目安)
展示	映像シアター	50 席 (目安) 現・議場を利用
その他	喫茶スペース	60m <sup>2</sup> (目安)
建物機能	廊下	
	階段	
	エレベーター (11 人乗)	
	トイレ (男子・女子・多目的)	ウォシュレット・オストメイト対応

	空調機械室	
	湯沸室	

(留意事項)

- ・床材については、摩耗条件を踏まえて、掃除のしやすさや静かさ等を考慮して選定する。
- ・テラスについては、利用者の安全と屋根の防水性能を確保する。
- ・開架書架の利用者、シアター・学習フロアの利用者及び職員・スタッフの動線を考慮する。

## (2) ゾーニング

別紙図面を参考とする。

## 5 その他

### (1) 設計者の選定方法

設計者の選定方法は、基本計画を具現化するための建築設計上のコンセプトや考え方の提案を受け、設計者の姿勢も含めて総合的に評価するプロポーザル方式を採用する。また、広く設計提案を受けられるよう公募型とする。

### (2) 木材利用

内装や書架、家具等可能な限り真庭市産木材を利用する。併せて、CLT（直交集成板）の活用も検討することとする。

### (3) ユニバーサルデザイン

図書館は不特定多数の人が利用するため、エレベーターの設置等、バリアフリーに配慮した施設整備をはじめ、高齢者・障がい者に限らず、皆が安心して利用できるユニバーサルデザインを取り入れた環境とする。

### (4) 耐震性能の確保

施設の整備にあたり耐震補強を行うこととする。その際、平成24年に市が行った耐震診断の結果を参考とすることとする。

### (5) 安全性の確保

利用者の安全性、災害時の対応及び情報セキュリティを十分考慮することとする。

### (6) 施設の管理運営

運営は真庭市が直営で行う。

### (7) 開館日、開館時間

中央図書館の役割やサービスを考慮し、多くの市民が利用しやすい開館日、開館時間を検討する。また、1階・2階部分と3階の利用時間を分けることも併せて検討する。

### (8) 人員配置

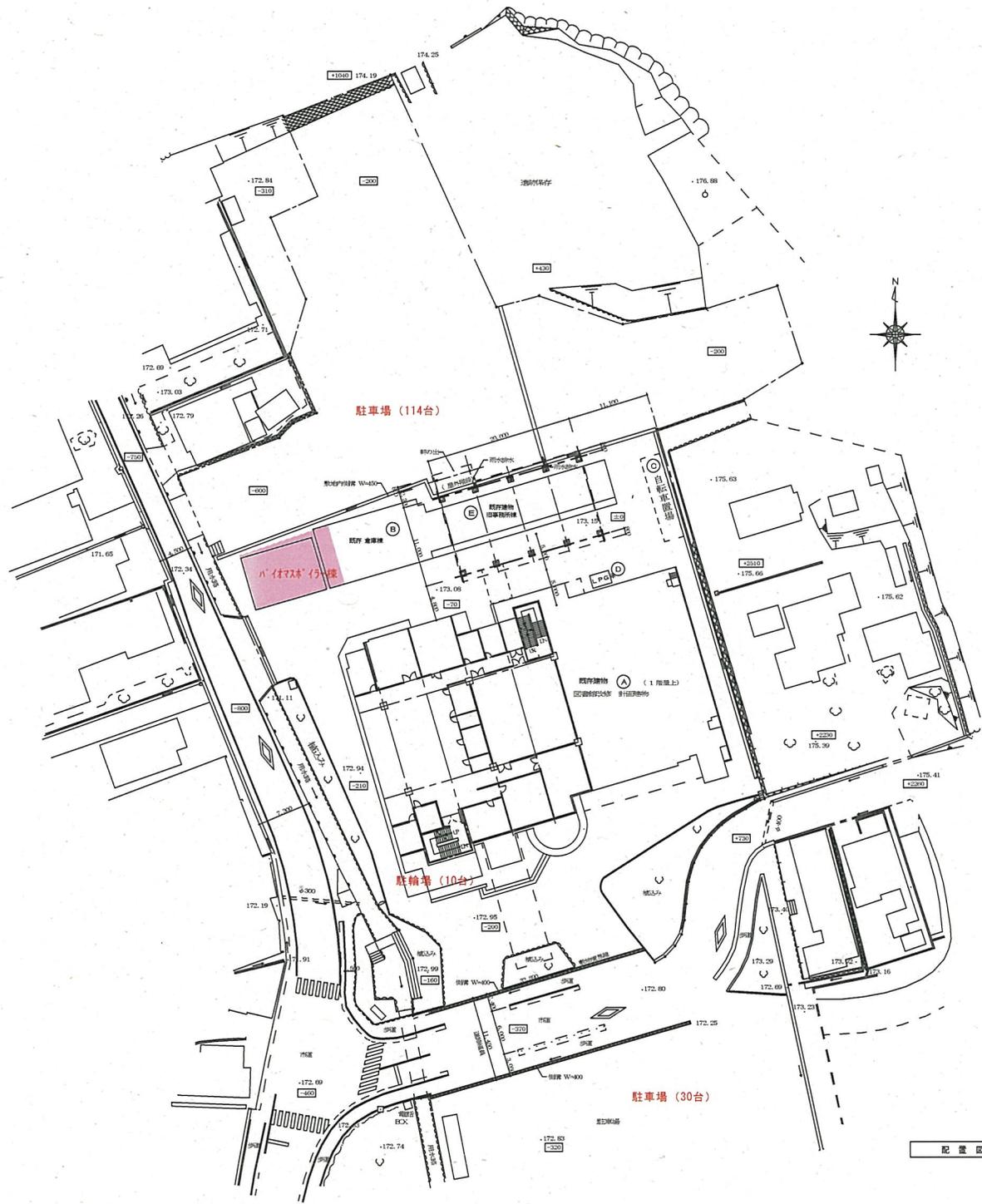
専任の館長を配置する。その他必要な人員を確保することとする。

#### (9) 市民との協働

「まにわ本クラブ」やボランティア団体との協働により、開かれた魅力ある図書館としていく。そのほか、市民団体等と共にシアターの活用を図ることとする。また、学校図書室やまち並み図書館との連携も行うこととする。

## 6 勝山振興局機能について

勝山振興局機能は勝山文化センターへ移転する。勝山文化センターの事務室、応接室及び旧生涯学習課事務室等を改修して有効利用することとする。その際、振興局と文化センター・公民館の双方の利用者に配慮することとする。



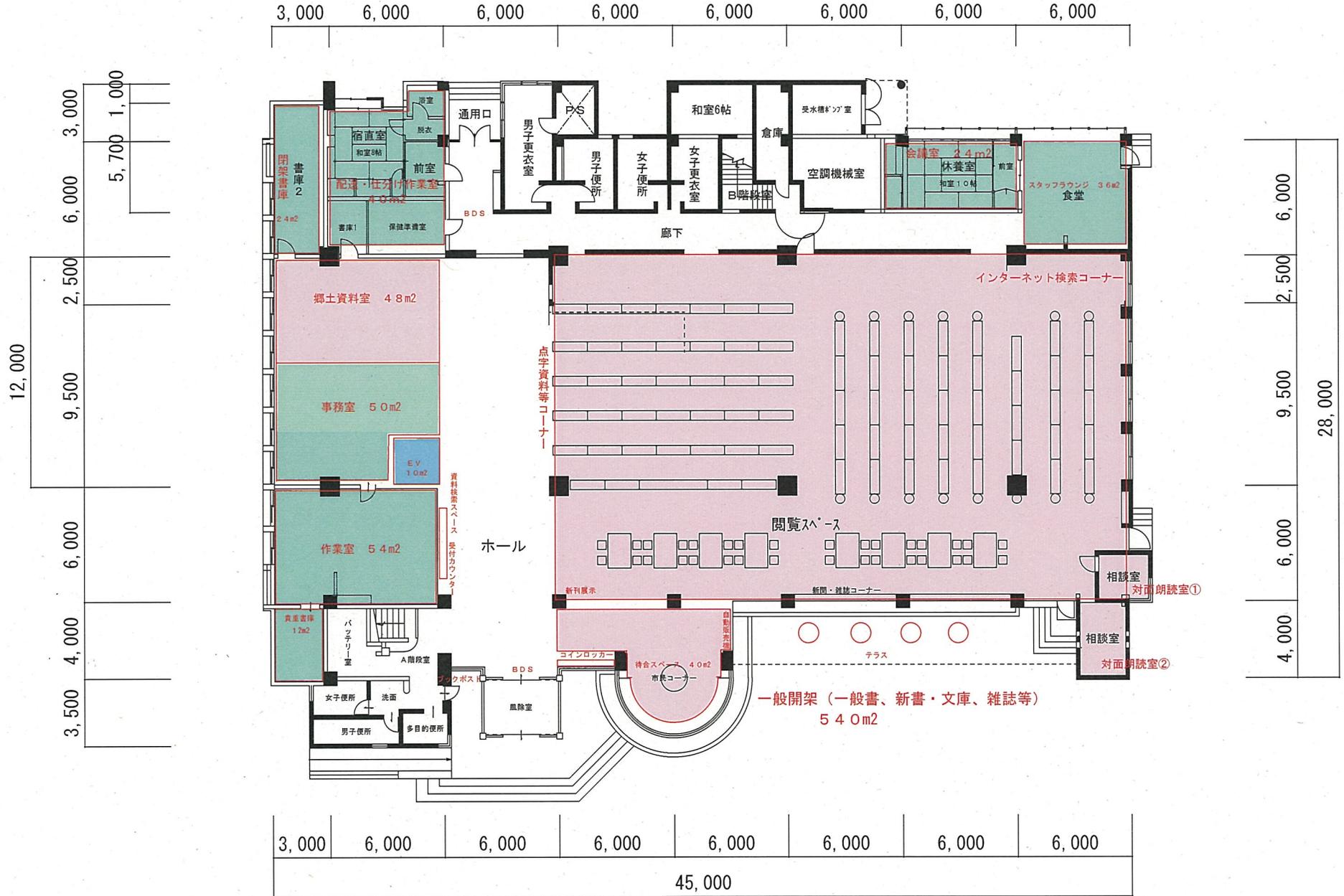
・土地

真庭市勝山53-1番地ほか35筆（全筆真庭市有地）  
 敷地面積：8,592m<sup>2</sup>  
 駐車場：144台

・建物

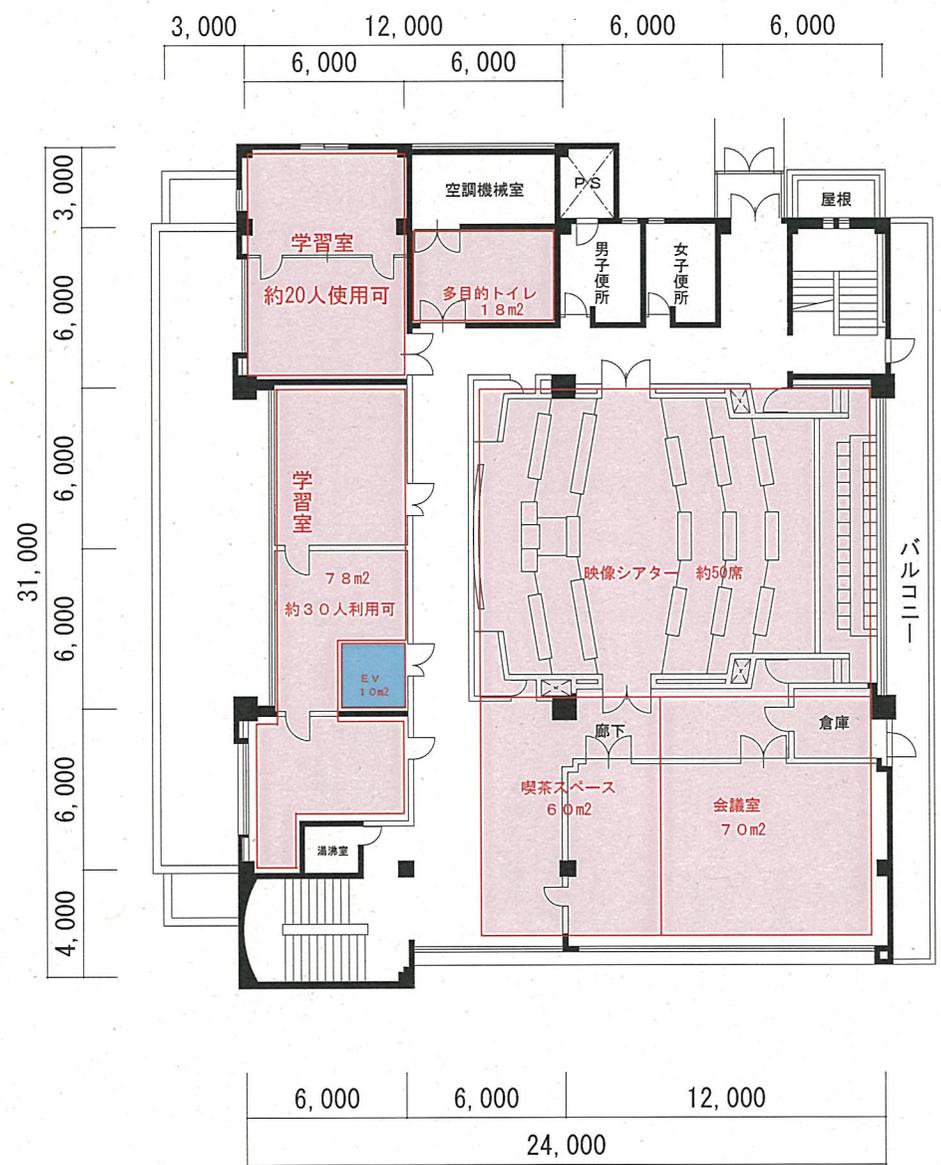
真庭市役所勝山振興局庁舎（昭和55年建設）  
 地上3階鉄筋コンクリート造  
 建築面積：1,306m<sup>2</sup>  
 延床面積：2,812m<sup>2</sup>

配置図



1 階





3階